Imabari Cultural Properties Map

いまばり文化財マップ《波方・大西・菊間地区》

infomation

【文化財について】
今治市教育委員会事務局
文化振興課　☎０８９８－３６－１６０８
波方支所地域教育課　☎０８９８－４１－７１１１
大西支所地域教育課　☎０８９８－５３－３５００
菊間支所地域教育課　☎０８９８－５４－５３１０

今治市の文化施設

【観光情報について】
今治地方観光情報センター　☎０８９８－３６－１１１８
今治地方観光協会　☎０８９８－２２－０９０９
今治市観光課　☎０８９８－３６－１５４１

今治市の観光情報

大西藤山歴史資料館

国指定史跡「妙見山古墳」の展示施設である藤山歴史資料館。これまでの調査・研究成果を踏まえて、第１展示室では、２つの竪穴式石槨（埋葬施設）を原寸大で復元したジオラマや、出土した副葬品を展示しており、第２展示室では、墳頂や墳丘から出土した飲食用の小型土器や、当古墳でしか出土していない伊予型特殊器台などを展示し、古墳の頂上部で行われていたであろう祭事について解説している。

国指定史跡「妙見山古墳」

藤山健康文化公園内の標高 80ｍの丘陵上で、3 基の古墳からなる妙見山古墳群。このうち妙見山１号墳は全長 55.2ｍ あり、古墳時代初期の貴重な前方後円墳。保存のための発掘調査ののち復元整備を行っており、古墳からは大西平野、瀬戸内海の斎灘を一望することができる。また、１号墳後円部で発見された １号竪穴式石槨は発掘時のままの姿を保存しており、ガラス越しに見学することができ、妙見山古墳保存会によるガイドを行っている。　※ガイドの詳細は大西藤山歴史資料館までお問い合わせください。

妙見山１号墳

開館時間　午前９時から午後５時

観覧料　一般：３１０円　学生：１６０円
団体割引（20 人以上）及び高齢者（65 歳以上）：２割引
高校生以下又は 18 歳未満：無料　障がい者とその介助者１名無料

休館日　毎週月曜日（祝日の場合は原則翌日振替）・12 月 29 日から翌年１月３日まで

電話番号　０８９８－５３－２３１３

瓦のふるさと公園

750 年の伝統を持つ菊間瓦の歴史と文化をモチーフとした公園、園内のかわら館では、めずらしい瓦や鬼瓦、各産地の瓦などが展示されており、昔の瓦づくりの道具や瓦づくりの行程がわかりやすく紹介されている。隣接する「実習館」では実際に菊間瓦の土を使って粘土細工ができる。また、公園内には全長 120ｍのローラーすべり台や瓦でつくられた干支のオブジェが点在し、頂上に位置する時計展望台に上ると、心地よい潮風を受けながら遠く瀬戸内の島々を一望することができる。植栽エリアでは、地元の愛好家らがバラを育てており、その数は 100 種 900 株のバラが咲き誇り、開花時期の５月、10 月になると多くの観光客でにぎわいを見せている。

開館時間（かわら館）　午前９時から午後５時

電話番号（かわら館）　０８９８－５４－５７５５

休館日（かわら館）　毎週月曜日（祝日の場合は原則翌日振替）12 月 29 日から翌年１月３日まで

観覧料（かわら館）
大人：２１０円　子供：１００円　65 歳以上：１００円
団体割引（20 人以上）：２割引　障がい者とその介助者１名無料

菊間瓦

古くは、河野氏の作事方を務めていたとの伝承があり、慶長９（1604）年、加藤嘉明公が松山城を築城した際に瓦を納め、江戸時代後期には京都御所などにも納めている。明治 16(1883)年には、皇居御造営時の瓦に菊間瓦が選定された。菊間瓦の特徴としては、いぶし銀の輝きを長く保ち、種類も豊富で表現も自由にでき、一般的な瓦よりサイズが小さいため、重たりが深く風に強く飛び難く、葺きあげた姿が木目細かで優美である。また、堅牢で耐寒力があり、排水性が良く、高い断熱性があり快適である。菊間町内からは原料となる「五味土」が採取でき、燃料となる松材にも恵まれていたほか、温暖少雨の瀬戸内海式気候は瓦の自然乾燥に適し、海に面し材料や商品を運搬する海上交通も発達するなど、生産販売の条件が揃っていたことから、海治いを中心に瓦産業が発展した。

御所鬼の木型
明治 16(1883) 年、皇居御造営時の瓦に菊間瓦が選ばれたとき、宮内省から送られてきた原寸大の鬼瓦の木型。

市指定文化財　遍照院庫裏鬼瓦

大角海浜公園

愛媛県最北端にあり、自然と人工美の調和が保たれた公園で、園内には魚のモニュメントや展望台・キャンプ場などがある。夏には海水浴やキャンプ・釣りなどを楽しむことができ、大勢の人で賑わっている。

開園時間　自由　**料　金**　無料　**休　日**　無休

七五三ヶ浦海岸

箱庭のような自然の庭園と呼ぶにふさわしい風景が広がり、夏には海水浴やキャンプを楽しむことができる。この浜は番所といわれ、戦国時代には来島村上氏の砦であったとされ、岩礁の中には船を繋いだとされる船継ぎ石の跡がある。

開園時間　自由　**料　金**　無料　**休　日**　無休

星の浦海浜公園

「遠い昔、このあたりに星の神が天降った。」との伝説からついた地名。近くには、星の神を祭った星神社もある。美しい砂浜が続く遠浅の海岸は、海水浴やマリンスポーツが楽しめる。

開園時間　自由　**料　金**　無料　**休　日**　無休

鴨池海岸公園

延長約 800ｍの白砂の海岸。春から夏にかけての凪いだ日には、一面鏡のような穏やかな水面となることから、夏にはマリンスポーツや海水浴、キャンプなどで賑わう。平成 16 年から、とびがらす園地として駐車場、トイレやシャワー施設を整備し、海岸を見下ろせる高台には展望台も整備され、来島村上氏の来島城の支城であった弓杖島（弓杖城跡）や、怪島（怪島城跡）が浮かぶ斎灘を一望できる。

開園時間　自由　**料　金**　無料
休　日　無休

来島村上氏

来島城跡

来島 通康

村上海賊は、芸予諸島の能島、来島、因島に本拠をおいた三家からなり、同じ村上姓を名乗る三家は強い同族意識を持ち、それぞれの領地に多くの「海城」を築き、三家が連携して芸予諸島の航路全域を掌握した。『四国圏の航路を押さえていた来島村上氏は、来島城（★）を本拠とし、来島城や波方館の防衛のため、高縄半島の北端である波方の岬や島に、多くの支城や砦（★波方海賊城砦群）を築いた。末裔である久留島家において初代と位置付けられている村上通康は、河野氏の重臣で中核を担う存在であった。とりわけ海上交通に関しては来島村上氏が総括する体制であったという。当時の河野氏当主弾正少弼通直が、自身の後継者として彼の名を挙げるほどその存在は大きかった。永禄 10(1567) 年に通康が病死し、通総の代になると、これまで関係の深かった河野氏と対立するようになり、天正 10(1582) 年には、織田信長の調略により、毛利・河野氏から離反。毛利・河野氏と能島・因島村上氏の軍勢に来島城を攻撃された通総は、翌年来島を離れ秀吉を頼った。秀吉の下で通総は性を来島と改め、天正 13(1585) 年、秀吉による四国平定後、風早郡一万四千石の豊臣大名となり帰国を果たす。その後、文禄・慶長の役（1592～1598 年）で船手衆として兄の得居通幸と共に参戦するも相次いで戦死。子の康親が当主となる。関ケ原の合戦（1600 年）後は、一万四千石の豊後森藩（現大分県玖珠町）へ国替えとなり初代藩主となった。２代藩主通春が『来島』から『久留島』に改姓。久留島家はその後も幕末に至るまで藩主として続いた。

ぼくがいる場所の文化財は、日本遺産に認定された『“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島ーよみがえる村上海賊 “Murakami KAIZOKU” の記憶ー』の構成文化財だよ。詳しくは、今治からしまなみ海道を渡って、最初の島「大島」にある村上海賊ミュージアムに行ってみてね。

村上海賊ミュージアム マスコットキャラクター　かいぞくくん

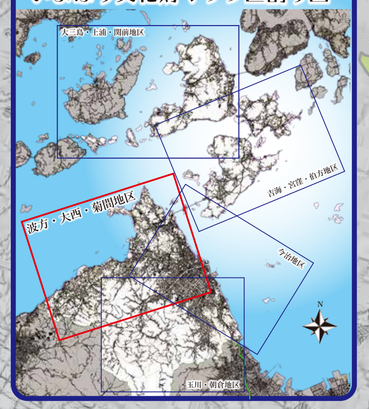
murakami-kaizoku.com

村上海賊 Twitter

日本遺産“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島
ーよみがえる村上海賊 “Murakami KAIZOKU” の記憶ー

『戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた『村上海賊』。理不尽に船を襲い、金品を略奪する海賊（ハイレーツ）とは対照的に、掟に従い航海の安全を保証し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地『芸予諸島』には、活動拠点として築いた『海城群』。語り受け継がれてきた『伝来資料群』や『伝統文化』、祈り崇められた『神社仏閣』。彼らも見たであろう多島美や白砂青松の景色『名勝』、芸予諸島の南北交流の礎ともいえる、越智式と呼ばれる宝篋印塔や五輪塔などの『石造物』など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。今治～尾道をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を生かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。

いまばり文化財マップ区割り図



凡　例

- 文　化　財
- 国　　道
- 県　　道
- ブルーライン（今治・道後はまかぜ海道）
- 道　　路
- ＪＲ予讃線

縮尺表示
0　500　1000　1500　2000m

いまばり文化財マップ《波方・大西・菊間地区》

Imabari Cultural Properties Map

1 市 記【史跡】水崎遺跡

この遺跡は縄文時代前期から同後期にかけての土器が出土した遺跡であり、瀬戸内海を隔てた山陽地方とも密接なつながりをもち、山陽と四国の文化の中継地の役割を果たしていたものと考えられる。また、この遺跡からは多数の石錘が出土しており、もともとは海岸の堤より上にあったものが流れ込んだものであると考えられている。

2 市 記【史跡】七五三ヶ浦遺跡

水崎遺跡と同様に縄文時代中期から同後期にかけての土器や石器が出土し、また住居跡と思われる遺構も検出されている。

4 市 記【史跡】江口貝塚

縄文時代前期前葉から縄文時代後期にかけたってほぼ連続して続く貝塚遺跡を含めた弥生時代初頭までの約4000年間にわたる遺跡であり、貝塚からは縄文土器、石器、ヤス状刺突具、貝殻、貝輪、シカ、サル、タヌキの骨、魚の骨、骨製品などが多数出土した。また、住居跡、配石墓、土壙、人骨などが発見されている。この貝塚は、西部瀬戸内の縄文土器の編年を研究する際の標準遺跡となる貴重な遺跡である。

11 市 記【史跡】塚の谷古墳群

果樹園開園当時には、各所で須恵器が出土したとされ、常念寺に出土遺物の一部が保管されている。塚の谷1号墳は、池の土手に造られた径10mほどの円墳で、墳丘上に竹が茂り、墳頂に天井石と思われる花崗岩の石が数個露出している。横穴式石室をもつ後期古墳とされる。

12 市 記【史跡】窯跡

養老町養老に建つ厳島神社手前の登り窯のような断面が見られ、覆い屋根がかけられている。遺物が出ましていないため時代や例を焼いていたかなどはっきりとしていない。近くに東照寺の跡があることから、あるいはその瓦を焼いた窯跡ではないかとされる。

18 市 記【史跡】一里塚（十里）

「一里塚」は城下町の中心松山町ノ辻（松山城西堀端北角）を基点として一里（約4km）毎に立てられた石碑で、「松山札辻より十里」とある。もとは沢の大池の近くにあったが、旧鍋口役場（現波方支所）に移された。寛保元年（1741）。松山藩の祐筆水谷半蔵の筆になるものと伝えられる。

24 市 記【史跡】弓杖城跡

（公社）今治地方観光協会　提供

弓杖島は、鴨池海岸の沖約400mに浮かぶ小島である。来島村上氏の配下、来島城の支城で城主は野島左衛門大夫であったとされる。

27 市 記【史跡】一里塚（九里）

宮脇川と旧県道の交わるところにあり、「松山札辻より九里」と刻まれている。当初は木製であったが、寛保元年（1741）、祐筆水谷半蔵が達筆をふるい石柱になったという記録がある。

28 市 記【史跡】藤山古墳

藤山の丘の上にある円墳、明治36(1903)年、麦畑作業中に偶然石棺を発見し、人骨、銅鏡、鉄短剣が出土したが、昭和52年当時に行方不明になっている。現在は供養塔が建てられている。

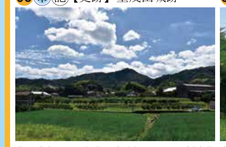
31 国 記【史跡】妙見山古墳

妙見山1号墳は古墳時代前期に属する前方後円墳で、眼下に斎瀬を見下ろす標高約80mの高所を占めている。発掘調査後は各方面の専門家からの指導を受けて整備復元が行われ、歴史公園として活用されているが、発掘したままの形で整穴式石槨を見学できるのはこの古墳ならではである。

37 市 記【史跡】おひつ岩

昔、村で「おとう（地域行事）」をしたり、お客さんを招待するとき、重箱の中の腹による巨石におひつやお膳、椀を貸して欲しいと願をかけると必ず取り揃えて貸してくれたと言い伝えられ、おひつ岩と呼んで信仰の対象としてきた。

38 市 記【史跡】重茂山城跡



豊臣秀吉の四国征伐の古戦場とされる、標高約300mの重茂山。城主は伊予の河野氏の武将、岡部十郎の城であったとされる。

39 市 記【史跡】衣笠弁天

衣笠の丘にある、弁天をまつる祠。この弁天は近くにある重茂山城の城主・岡部十郎の娘を弁天としてまったった伝えられている。

42 市 記【史跡】怪島城跡

怪島は大西町別府沖約1.3kmの海上にある台形の小さな島で、頂部には郭が形成され、全体が城として活かされている。戦国時代、来島村上氏の家臣である、神野左馬允が城を修築し、来島城の支城として斎瀬の海上を制していたとされる。

43 市 記【史跡】高城古墳

高城古墳は、佐方の JR 予讃線掘割りの海岸側、標高40m 程の小山の頂上にあり、高さ 1m・横10m・奥行5m の円墳である。古墳時代中期（1500年前）の箱式石棺内では、歯が残る頭蓋骨が発見されている。当時の漁業関係者の墓と思われる。

46 市 記【史跡】亀山八幡神社裏古墳

横穴式石室を持つ古墳で古墳時代後期の佐方の豪族の首長の墓と言われている。玄室の大きさは、横1.6m・奥行3.4m・高さ2mである。食器・つば・台付皿・ふたつき皿・たかつき・水瓶等の土器や小刀・金製の耳飾の曲玉・くだ玉等が出土している。

57 市 記【史跡】高仙山城跡

標高248mの山城で、高縄山を本拠とする河野氏の出城の1つ。室町時代後期の城主は池原氏部垣通茂で、天正13(1585)年、豊臣秀吉の四国征伐により落城した。城には本丸二ノ丸石積主景空掘等が残っている。

市 記【史跡】石碑「大乗妙典一字一石」

74 中央（菊間橋堤）

65 東（宮本、門前の境）

79 西（JR 松笠山トンネル上）

70 南（蔵谷お太郎さん参道）

天明4(1784)年9月浜村北屋、長野半左衛門経明が、打ち続く飢饉や病気流行に困り、大乗経文を小石に写経し、浜村中央及び東西南北に埋め、仏教の功徳により病気平癒村中安全を祈願した記念すべき大事な石碑である。北は国道の八幡前バス停付近にあったが、道路改修などにより現在行方不明。

市 記【史跡】石碑「一里塚」

81 六里 菊間町長坂（明田）

75 七里 菊間町民会館南側

48 八里 亀岡小学校前庭

菊間町内に長坂六里・葉山七里・高城八里の3基があるが、そのままの場所に残っているのは明田の六里だけで、道路改修や石の破損により、七里と八里は現在の場所に移設されている。石碑は安山岩製で、土部がとがった四角錐形、一里塚は造るべきとしてだけでなく、旅人の休息の場としても利用されていた。

【無形民俗文化財】今治及び越智地方の獅子舞

起源は、伊勢神宮の大神楽の流れを汲むものと言われており、毎年5月に各地区にて開催される春祭り（菊間地区は10月の秋祭り）において奉納される。当地方の獅子舞で特徴的なのは、人の上に人がのぼり、最に3～5段と継ぎ、最上段に獅子頭をかぶった子供が乗る「継ぎ獅子」が見どころで、三継ぎ、四継ぎと高くなっていく様はスリルと迫力がある。

※今治春祭り、菊間秋祭りの詳細な日程は、今治市ホームページの観光情報をご覧ください。

（公社）今治地方観光協会　提供

5 県 森上須田八幡神社に伝わる獅子舞

森上獅子連中

7 県 波方玉生八幡神社に伝わる獅子舞

波方青年獅子連中

10 県 小部白玉神社に伝わる獅子舞

小部獅子保存会

13 県 養老厳島神社に伝わる獅子舞

養老獅子保存会

15 県 樋口潮早神社に伝わる獅子舞

樋口獅子舞保存会

22 県 九王龍神社に伝わる獅子舞

九王獅子連

29 県 大井八幡大神社に伝わる獅子舞

宮脇獅子舞保存会

32 県 脇資布祢神社に伝わる獅子舞

脇獅子連

41 県 別府諏訪神社に伝わる獅子舞

別府獅子連

47 市 亀山八幡神社に伝わる獅子舞

佐方獅子連

55 県 大河内神社に伝わる獅子舞

光安獅子石保存会

67 県 加茂神社に伝わる獅子舞

加茂獅子保存会

66 県 民 お供馬の行事

（公社）今治地方観光協会　提供

通称「走り馬」といわれ、10月第三日曜日の加茂神社秋季大祭に神社境内にて行われる。「お供馬」とは「走り馬」行事に参加した馬が神輿の渡御に供奉することからその名がある。当日、飾り付けた馬に白衣、平袖の長襦袢を着用、鉢巻に江戸字の襷をつけ、紙ボンデンを付けた竹棍の鞭を持った騎手を乗せる。鳥居元から社頭まで約300mの馬場に、馬をつぎつぎに走らせる男壮な行事である。

63 市 民 伊予万歳（中ノ川万歳）

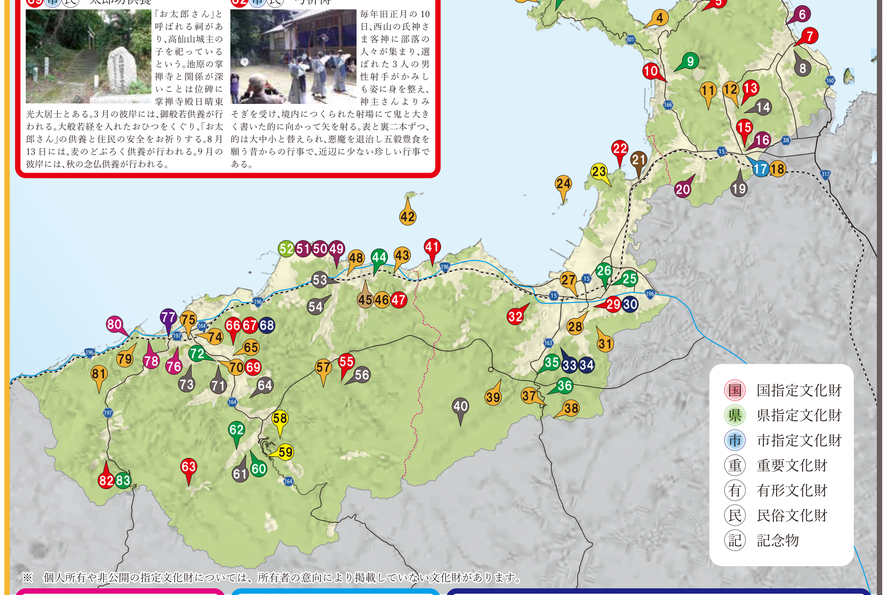
中ノ川万歳の起源は、口伝によると松山より150年以上も前に伝わってきたとされる。現在は、柱踊え、十二支豊年踊、義経千本桜、松づくしといった演目を披露している。

69 市 民 太郎坊供養

「お太郎さん」と呼ばれる祠があり、高仙山城主の子を祀っているという。池原の掌神寺と関係が深いことは位牌に掌神寺殿日晴東光大居士とある。3月の彼岸には、御殿若供養が行われる。大殿若経を入れたおつりをくり、「お太郎さん」の供養と住民の安全をお祈りする。8月13日には、麦のどぶろく供養が行われる。9月の彼岸には、秋の念仏供養が行われる。

82 市 民 弓祈祷

毎年旧正月の10日、西山の氏神さま客神に部落の人々が集まり、選ばれた3人の男性財子がかみしもを着て身を整え、神主さんよりみそぎを受け、境内につくられた射場に立て大きく書いた的に向かって矢を射る。表と裏二本ずつ。的は大中小と替えられ、悪魔を退治し五穀豊食を願う昔からの行事で、近辺に少ない珍しい行事である。



国 国指定文化財
県 県指定文化財
市 市指定文化財
重 重要文化財
有 有形文化財
民 民俗文化財
記 記念物

※　個人所有や非公開の指定文化財については、所有者の意向により掲載していない文化財があります。

76 市 有【工芸品】遍照院庫裏鬼瓦

遍照院第24世住職・瑞英僧正が天保4(1833)年に、お寺を現在地に移転させた時、庫裏玄関の鬼瓦として使用していたもので、昭和46年遍照院の本堂庫裏の大修繕が行われた際に教育委員会に寄贈され、かわら館に展示している。高さ136cm・幅126cm、口伝によると桶屋清兵衛の作といわれているが、鬼瓦ではない桶屋が作ったものにしても精巧な作品である。

78 市 有【工芸品】荒神社瓦灯籠

国道196号線からJR予讃線の線路を渡った先に建つ荒神社にある。荒神社はカマドの神、火事を防ぐとして瓦屋さんの信仰が厚い。江戸時代の瓦工業は西海岸が中心で瓦灯籠は石段中腹左側にある。灯をともすところ（火袋）に「金」と「荒」の字が抜き彫りされている。火袋の下にボタンの花の彫りものがきれいに浮き上がっている。天保2(1831)年八代屋藤次他16名によって寄付されて以来、今日まで300年。当時の祭礼の様子や民俗・芸能の実態を知ることのできる資料である。

17 市 有【考古資料】注口土器

旧波方フェリー発着場工事の時、海中の土砂中（海底）より出土した縄文時代後期の土器。表面には磨消縄文と呼ばれる文様が施されるが、これは器面が軟らかい間に縄文を施した後、沈線で文様を描き、その後ヘラ様の工具で縄文を磨り消した部分と残された部分とで文様を完成させるものである。※非公開

52 市 有【歴史資料】円福寺天和三年棟札

天和3年(1683)、円福寺境内に観音堂が建立されたときのもの。寺の安全を祈り、建築年代、世話人、施工者、寄付者の名前が墨書きされている。
※非公開

30 市 有【絵画】山本雲渓絵馬

33 市 有【絵画】山本雲渓絵馬

諏訪大明神社拝殿の南面の西側に掲げられている。画題は仁田四郎の猪退治で、高延元(1860)年に奉納された、雲渓81歳の極彩色の作品。

34 市 有【絵画】祭行列

68 市 有【絵画】絵馬「武将図」森樵眠筆

加茂神社の拝殿内、南面の西側に掲げられている。大型の作品で、中国の「三国志」に出てくる張飛の勇ましい姿を描いている。額縁には、文政7年(1824)正月、城下氏子中掲、願主、富田屋十之右衛門ほか9名の名前が刻まれている。県内に数ある樵眠の作品のうち、松山市平田町の阿沼美神社にある絵馬と並んで傑作の一つに数えられている。

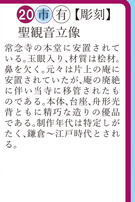
6 市 有【彫刻】地蔵菩薩像

港地区の地蔵堂に安置されている。玉眼入り、岩座に座す。材質は檜材。現地では延命地蔵という言伝えあり、岩座及び蓮弁の形から江戸初期の作品と推察されている。昭和58年修理に一度だけされた。地域の行事にてご開帳。

16 市 有【彫刻】青面金剛立像

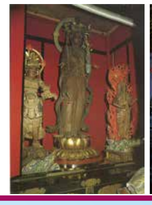
持宝院の本尊、青面金剛神は病魔、悪魔を払う神であるが、道教と習合して庚申信仰の本尊となっている。本尊の岩座、持物は共に後補。一面六臂三眼の忿怒形で鬼を踏み、頭、腕、腰、脚に蛇をまとう。石造がうく、木像のように木彫の作品は珍しい。平成4年に修理、江戸期の制作。なお、本尊の厨子は寛政7年(1715)9月に造られている。5年に一度10月のお祭りで御開帳。※次回の御開帳は令和4年。

20 市 有【彫刻】聖観音立像



常念寺の本堂に安置されている。玉眼入り、材質は檜材。鼻を欠く。元々は片上の庵に安置されていたが、庵の廃絶に伴い当寺に移管されたものである。本体、台座、舟形光背ともに精巧な造りの優品である。制作年代は特定しがたく、鎌倉～江戸時代とされる。

49 50 51 市 有【彫刻】



円福寺

画像左

木造十一面観音立像（中央）

木造不動明王立像（右）

木造毘沙門天立像（左）

画像右

木造十一面観音立像前立

円福寺のご本尊である十一面観音立像、脇仏には、右に不動明王、左に毘沙門天が祀られている。この三体は大きな厨子の中に収められており、33年に一度のご開帳で拝観することができる。人々は一生に数回しか拝むことができないため、代わりに厨子の前に、木造十一面観音立像前立を安置している。どの仏像も檜材の寄木造り、玉眼・白毫は水晶、鎌倉時代の制作と考えられ、本尊の十一面観音立像は体格のよい、やや男性的なご尊顔であり、前立の十一面観音立像は細身でやさしい女性的な姿をしている。
※次回の御開帳は令和9年。

58 市 記【名勝】歌仙滝

歌仙滝は高さ67m幅4.8mであるが、昔の尺でいうと36間あり、「三十六歌仙」と呼ばれた和歌の名人達になぞらえて、松山藩4代藩主松平定直公が名前をつけたと伝えられる。

23 市 記【名勝】とびがらす山

展望台に立つと、眼下には白砂の美しい鴨池海岸や大井の浜に林立する造船所のクレーン、来島村上氏の城跡のある弓杖島が望める。北に眼を移せば竜王岬、九王湾、漁業集落小部と宮崎の鼻、斎瀬を隔てて芸予の島々、西には斎島、安居島、遠くには安芸の島々、南には高縄山系の山々を望むことができる。

59 市 記【名勝】霧合滝

歌仙滝より、約500m県道玉川線を上ると、霧合の滝がある。水量が豊富で20m程の高さから瑠滝・雌滝の2つに分かれ落ちるさまは壮観そのものである。この二つの滝付近を歌仙公園といい、春の夜桜・夏のキャンプ・秋の紅葉と行楽の人の目を楽しませている。

77 市 有【古文書】遍照院文書

菊間町に現存する最古の文章で、高仙城主が遍照院へ寄付した寄付台帳と土地台帳である。（一般には非公開）

得居通欽寄状及坪付　2通　明応4年7月(1495)
池原源六親安寄付状　1通　文亀元年7月(1501)
当山寺敷の事　1通　（同上）

21 市 有【建造物】九王地蔵堂

現在の地蔵堂は、建築様式などから判断して19世紀中期ごろの建立と考えられ、享保6年(1721)に造立された九王地蔵尊（石像）をまつる。建築様式は唐様で、斗きょうの組み立て構造もその各々が相調和し、木鼻の龍、唐獅子をはじめ、頭貫などら所に華麗な彫刻が施されており、江戸後期の細部意匠が非常に華やかになる時代を表しているとされる。

14 市 有【石造美術】五輪塔

ここには、養老館の新拝寄であった東照寺のあったところと言われ、その名残りのこの五輪塔は、室町時代のものであるといわれ、小型であるが、その特徴をよくあらわしている。

19 市 有【石造美術】キリシタン石像

豊臣秀吉や江戸幕府によるキリスト教禁止令により、信者達は隠れてひそかに信仰した。この2基の石像も、石の質、加工、大きさ共に各地で見られるものと同じで、凝灰岩の座地である九州などで造られ、運ばれてきたものと考えられる。波方地区ではここでしか発見されていない貴重なものである。

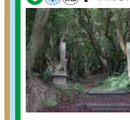
8 市 有【石造美術】長泉寺五重の層塔

長泉寺は玉生八幡宮の別当寺で、中世の頃は長福寺とよばれ、来島村上家の祈祷所として信仰が厚かったと言われている。五重層塔は、第五層の塔身、笠、相輪が江戸時代以後の補修であるほかは鎌倉期の造立とされており、当地方では数少ない層塔の一つで、相当な勢力があったことを物語っている。

45 市 有【書跡】亀山八幡神社寄付板

佐方の亀山八幡神社拝殿内、南面の東端に掲げられている。3枚ある寄付板の一番上のもので文政2年(1819)の年号があり、波頭・渡部・村上・吉井・越智・長野・新田等の姓が連ねられている。

3 市 記【天然記念物】ヤマモモの巨木



宮崎地区の人家を通り抜けると、照葉樹林の樹叢の中に幅3m程の参道があり、その両側に数百年を経たヤマモモの老樹が、単立するもの、数本に株元から分岐するものなど、中には周り5mにも及ぶ大樹もあり、波方地域において最も素晴らしい価値ある自然である。

9 市 記【天然記念物】白ツバキ

周り90cm、樹高6m、樹齢約180年といわれるが、自由に伸びて樹勢が良い。

25 市 記【天然記念物】ビャクシン

ヒノキ科の常緑小高木で、イブキ、イブキビャクシンとも呼ばれる。旧大庄屋井手家北方に位置する、旧鴨頭医院の庭園中央にある。樹勢もよく、姿態も美しく名木のあるにふさわしい。
※個人宅敷地内のため非公開

26 市 記【天然記念物】大クスノキ

この木のある旧大庄屋井手家の大屋根に置かれた天水桶は、大坂夏の陣の時に徳川方に味方した功績により特別に認められたものだと言われている。根廻り5m、樹高25m、樹齢は380年以上だと言われ、根元には一字一石の経塚が祀られている。

35 市 記【天然記念物】クロガネモチ

加茂神社境内にあるこの木は、幹周4.45m、樹高20m、推定樹齢250年、地上2mほどで2幹に分かれているが、5mほど上の所で枝どうしが融着している。この木は、明治35年にこの地区神社が勅請される以前からあり、この地は古墳であったと言われている。

36 市 記【天然記念物】ヤマモモ

明堂院本堂の裏にある。倒幹は三本に分かれ勢いがある。根周9m、樹高15m、樹齢は300年と言われている。後醍醐天皇の皇子、尊真親王の菩提を弔うため廟堂を建立した。その後大火で消失したお堂を現在地のヤマモモのそばに建て替えた。明堂は廟堂の転化といわれ、八股餅の伝説と共にこの辺りの信仰の象徴として「明堂さん」で親しまれている。

44 市 記【天然記念物】大ソテツ

観音堂の左側にある。目通り1.8m、樹高4m、樹齢は推定230年と言われている。この木は、元々ごまり100m西の観音堂元屋敷にあったのを掘り出して、今の場所に移したと言われている。

60 市 記【天然記念物】大クスノキ

天一神社の参道中腹のお側にそびえ立つクスノキは、目通り6.1m、樹高25m、樹齢は推定300年以上と言われており、覆い被さってくるような樹姿は迫力がある。

62 市 記【天然記念物】大モクセイ

個人宅の庭にあるこの木は、納屋の2階に被さるように枝を伸ばし、やわらかい樹形をしている。現在の木は2代目で目通り1.7m、樹高13m、樹齢は推定180年と言われている。

72 市 記【天然記念物】しだおとめ（ツバキ）

濃い紅色をした八重咲のツバキ2本で、幹周り1.7mと0.9mで、樹高はどちらも5m、樹齢は大きい方で約300年を経ており、江戸時代にはめずらしいツバキであったため大切に育てられ、木にも勢いがある。

83 県 記【天然記念物】客神社の社叢

客神社の境内と、その周辺の森が社叢になっており、アカガシ、ツブラジイ等の大木の他、全部で数10種の植物が繁茂し、当地方の自然植生の極相林である暖温帯常緑広葉樹林の状況をしめしている。

市 有【工芸品】金刀比羅社瓦灯籠

76

80

2基の灯籠は岩堂子トンネルの真上の金刀比羅神社の前にあったものである。大きい方は航海灯で、現在はかわら館に展示される。油を入れる大きい壺があり長い間灯を灯すことができる。また椿の花や、蓮の花の模様が実に立派である。これは港を出入りする船のよい目標になったと思われる。小さい方の灯籠は今も金刀比羅神社の前にあり、海の神様こんぴらさん信仰の灯をつけたものである。

64 市 有【石造美術】釈迦堂宝篋印塔

通称「釈迦堂」、池原の神神池東南に広がるみかん畑の丘の上にある。基礎は下部をコンクリートで固定している。基礎側面には三面に格狭間を彫っているが、背面は素面である。塔身は四面に月輪内に蓮華座を線刻している。笠は上六段、下二段。14世紀前期もしくは中期前葉の造立と推測されている。

40 市 有【石造美術】右馬允の五輪塔群

この霊廟は、山之内川の上流から玉川町竜岡へ抜ける林道沿いにある。霊廟内には、花崗岩製の五輪塔残欠群が祀られており、これらは大河内一族の供養塔で大河内氏の祖は信長軍に敗れた北畠具親であると言われている。

54 71 市 有【石造美術】隠れキリシタン碑

種地区

蔵谷地区

伊予では、永禄9(1566)年にフロイス神父らが松山市堀江に上陸し布教した記録が残っており、高縄山の麓一帯で数多く発見されている一石五輪塔が、キリシタン像として、菊間地区でも70基余りが確認されている。豊臣秀吉や江戸幕府によるキリスト教禁止令により、きびしい弾圧が続いたが、信者達は隠れてひそかに信仰を続け、「隠れキリシタン」と呼ばれるようになった。菊間町内の70基余りを代表して、種地区の1基と、蔵谷地区の2基を今治市指定文化財として指定している。

56 市 有【石造美術】石造多重塔

種（東山）の大河内神社裏で、個人のふかん畑内に立つ小さな祠の中にある。地元の人々は「高仏さん」と呼び花や供物がたえない。塔は笠が一つ欠損しているが、もとは五層の層塔であったと考えられる。造立は13世紀代と推測されている。

61 市 有【石造美術】明浄寺宝篋印塔

明浄寺本堂西側に、残欠を組み合わせた五輪塔数基と並んである。基礎側面には四面に格狭間を彫り、上端は反花式。塔身は四面に梵字を彫り、笠は上六段、下二段、鎌倉時代後期の作とされる。

63 市 有【石造美術】石造馬頭観音

菊間町内には同じ形のものが多数あり、この馬頭観音は長板に二つあるものの一つで、左右にも顔があり、弘化4(1847)年に建立され、峯の道ばたに安置されている。昔の農家には牛馬が多く家人同様にかわいがり、病気やけがを心配し、交通の要点に建立して牛馬の安全を祈った。その温和な姿に農民の願いがこめられている。

Imabari Cultural Properties Map
miura-ori
Imabari